



平成25年7月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティバス担当）03-5803-1387

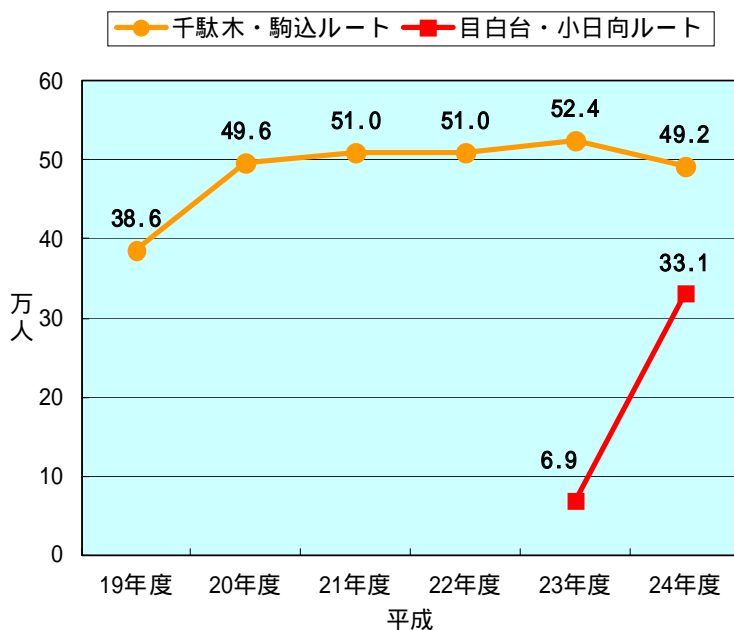
平成25年7月1日にBーぐる沿線協議会が開催され、平成24年度運行実績、コミュニティバス関連調査報告、広告付きバス停留所上屋の設置等を議題に、活発な意見交換が行われました。

2路線で82万人3千人の利用、目白台・小日向ルートは大幅増加

平成24年度の千駄木・駒込ルートの乗車人数は49万2千人（一日当たり1,348人）と前年度と比べて3万1,772人減少しました。年間乗車人数が前年度を下回ったのは今年度が初めてでしたが、冬場とくに1月、2月の降雪や寒波の影響とみられています。元田会長からは、「冬場に利用が増加する雪国のコミバスと逆の傾向がみられ興味深い」とコメントがありました。

一方目白台・小日向ルートの年間乗車人数は33万1千人、一日あたり908人で対前年比131%と大きく伸び、平成23年12月の運行開始から1年あまりが経過し、着実に利用が増加していることがわかりました。

また決算については、前年度よりも営業経費が増加していますが、これは千駄木・駒込ルートで使用する車輛の経年劣化による修繕費（部品交換）によるところが大きいとの説明がありました。



千駄木・駒込ルート 19年度は4月28日からの集計（339日）
目白台・小日向ルート 23年度は12月23日からの集計（100日）

図1 Bーぐるの年間乗車人数の推移



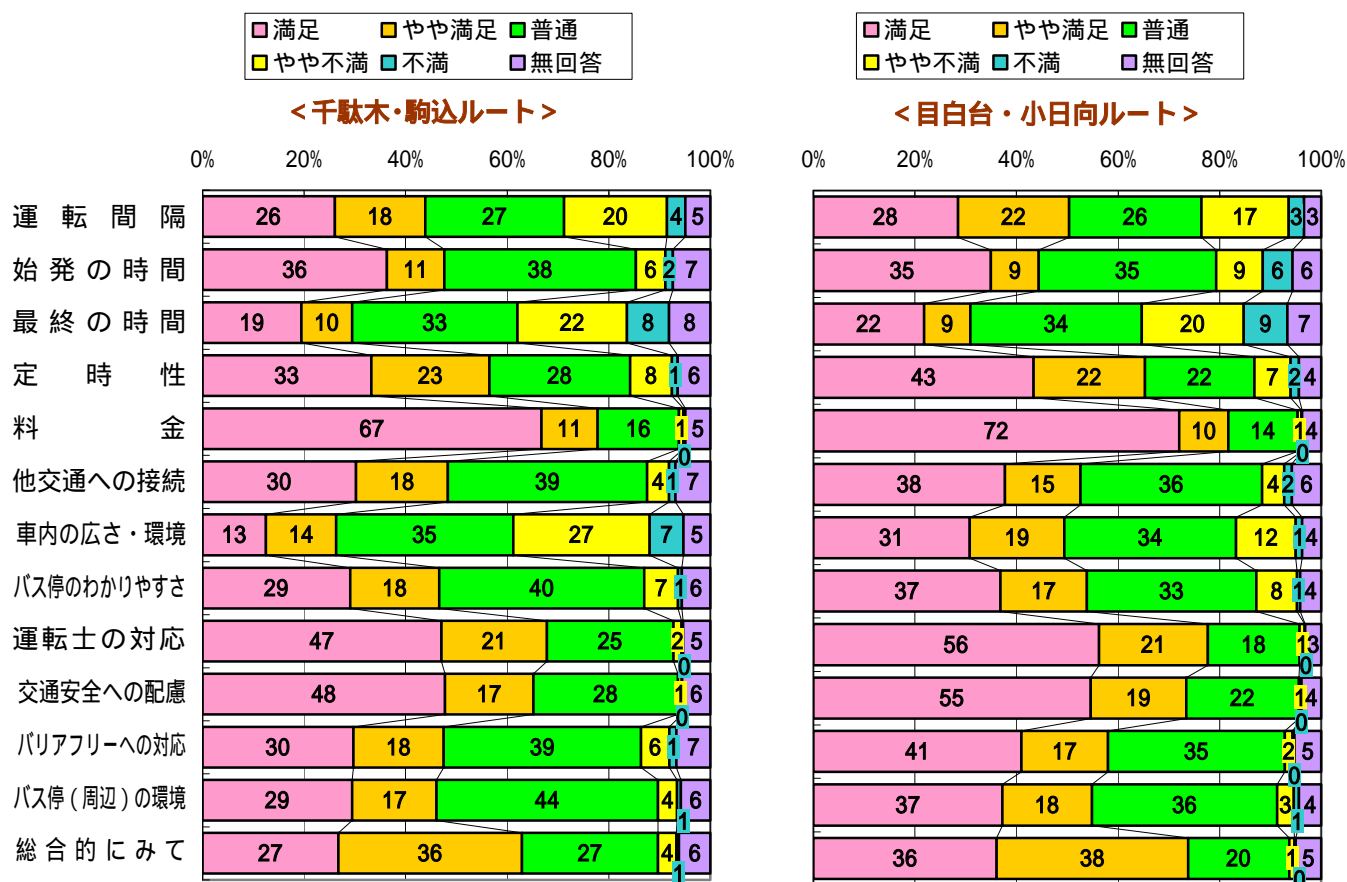
元田会長を中心に沿線協議会のメンバー

「料金」、「運転士の対応」、「交通安全への配慮」が高い評価

続いて事務局から、平成24年度に実施したコミュニティバス関連調査のうち、前回報告できなかった箇所が報告されました。

Bーぐるのサービス水準を評価する13項目の中で、両路線とも評価の高い項目は、「料金」、「運転士の対応」、「交通安全への配慮」の3項目、これに加えて目白台・小日向ルートでは、「定時性」、「バリアフリーへの対応」も高い評価を得ています。相対的に評価の低い項目は、千駄木・駒込ルートの「車内の広さ・環境」があがっています。

また平日では通勤利用の割合が高い（千駄木・駒込ルート 33%、目白台・小日向ルート 42%）との報告に対して、元田会長から「Bーぐるの定時性が確保されている証し」であり、「アンケートから算出された利用者の時間短縮効果を利用者全体で足し上げるといくらになるか、さらに実際に使った補助金の額と比較すれば、Bーぐるを事業評価することもできる」とのコメントがありました。



小数第一位を四捨五入しているため、割合の合計が100にならない場合があります。

図2 Bーぐるのサービス水準の評価

編集後記

平成23年度から2年間、公募委員を中心に部会で活動してきた「新しい公共支援モデル事業」が終了しました。助成事業の終了とともに活動が停滞してしまう団体が多い中で、今年度も引き続き、沿線情報番組DVDの制作とBーぐる市の開催を予定しているそうです。

公募委員からは、「沿線商店街の活性化に向け、区商連とのコラボ事業にも積極的に取り組みたい」との発言もあるなど、今後の展開に期待したいと思います。(N)